

第6回笠岡市総合計画審議会議事要点録

- 日 時：平成29年7月3日（月）14：00～17：00
- 場 所：中央公民館4階集会室
- 出席委員：12名
小林会長，大嶋副会長，浅野委員，齋藤(永)委員，玉置委員，鳴本委員，西村委員，長谷川委員，原田委員，東山委員，水野委員，三谷委員
- 欠席委員：6名
遠藤委員，大山委員，藏本委員，齋藤(一)委員，谷川委員，野本委員
- 内 容：下記のとおり

1 議 事

■協議事項（1）第7次笠岡市総合計画の基本計画案について

- 資料に基づき，基本計画案について事務局から説明した後に質疑応答。

<委員意見の要旨>

「2-3 道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備」

会長：橋は何年程度を目安に架け替えしていくのか。

建設事業課長：架け替えはかなりの事業費がかかるので，橋梁の長寿命化対策により5年ごとに定期点検して少しずつ直していつている。

「2-2 定住・住宅対策」

委員：若者会議は28年度に何回くらい行ったか。

定住促進センター所長：毎月1回行っている。

委員：住宅対策は6次の計画にも載っていたか。実現できなかったとしたらなぜできなかったのか。

建設産業部次長：第6次では定住促進の関係で流出を食い止める方策等に重きを置き，住宅団地開発という文言はなかった。7次の計画では道路の利便性を利用した団地開発や市の土地の有効活用等を行っていく。例えば，市営住宅を整理して空いた土地を住宅団地に活用するなど。

委員：人口減少の中で，住宅団地の開発は大きなポイント。「民間企業の力を活用」としているが，過去にもあったか。

建設産業部次長：過去には不動産会社等が行ったケースが多い。民家企業への助成金等により、団地の開発を誘導したい。

委員：定住促進について、雇用や子育て支援策に惹かれて住み始めることが多く、強くPRすることが大事。また、定住促進のホームページがいまひとつなので、笠岡の美しいものをアピールして欲しい。

定住促進センター所長：若い人に住んでいただくにはご指摘の件が重要な要素だが、笠岡市は充実していると考えている。ただ、PRが下手なのは確かなので、メディアを活用したい。HPは全体でリニューアルを進めている。

委員：新築住宅助成金の対象とならない40代以降の人も家を建てやすくなる取組があればよい。

委員：不動産屋によく来るのは、土地や建物をすぐに売りたいという相談。市に寄附したいという人も多いが、どんどん受け付けて売って欲しい。

建設産業部次長：寄附や売却の相談も受けている。一番困っているのは所有者の特定ができないこと。寄付は無理としても、駅周辺等の価値ある土地建物を、不動産業者を通して流通を促していきたいという考えはある。

定住促進センター所長：空き家が増えていることは問題だと、市民に広く知らせていくことが大事だと考えている。

委員：若者会議は具体的にどんなことをやっているのか。

定住促進センター所長：住みやすい笠岡をつくるための政策提言等を行ったり、実際に事業として行ったりしている。今後は主体性を持って活動してってもらいたいと考えている。

「4-1 地域福祉の推進」

委員：在宅での看取りに対応する病院数を指標に上げているが、今ある病院で対応できるようにするのか、新たな病院を増やしていくのか。

健康福祉部次長：基本的には既存の医療機関を活用することを考えている。

委員：いきいき百歳体操は健康づくりの項目に入ってはいけないのか。

長寿支援課長：各地域で高齢者が行っている体操で、高齢者福祉の項目には記載している。

委員：地域見守り活動の団体数が少ないように思うが。

建設産業部次長：見守り活動に関する協定を締結している団体の数である。

「4-2 健康づくり」

意見なし

「4-3 医療・救急体制の整備」

委員：島しょ部の医療体制について、発病してから病院まで2時間近くかかる。救急艇があれば時間短縮につながるの、ぜひ備え付けて欲しい。

「4-4 障がい者・障がい児福祉の充実」

委員：親支援について、笠岡は手厚くやってきているが、この表現ではそれが見えにくいのもったいない。明確に示してもらいたい。

委員：市内で障がい者の就労は何名くらい達成しているのか。

地域福祉課長：正確な数字は把握できていないが、就労支援員が障がい者と職業安定所と連携を取りながら就労支援や就労後の手厚いケアをしており、70名程度だと思う。

委員：発達障がいを持つ子どもの目の視能訓練を井笠圏域でやっていただきたい。

委員：「理解を深める研修、支援者の事例検討等への参加者数」の指標のH28実績値が305人なのに、目標がずっと300人である理由は。

地域福祉課長：300人程度の研修を継続的に続けていきたいということ。

健康福祉部長：目標値を増やす方向で検討したい。

委員：幼い頃からのボランティアなどの体験的な福祉教育とは何か。

地域福祉課長：様々な地域活動に保護者と一緒に参加することなど。

「4-5 高齢者福祉・介護の充実」

委員：認知症介護研修センター事業について、認知症の勉強があまりできていないのか。家族が在宅でケアするための研修をもっとして欲しい。

委員：百歳体操の名称について統一を。

「4-6 社会保障」

委員：介護給付適正化事業について、笠岡市は適正に指導していると思うが、さらに削っていく方針か。

長寿支援課長：笠岡市の場合、介護予防に力を注ぎ、それによって介護認定率が上がらないように努力する。

「5-1 情報・プロモーションの推進」

会長：公衆無線LANは誰でもつなげるものか。

企画政策課長：観光客を呼び込むために、一般企業の力を借りて利用しやすい環境を整備していきたい。

「5－2 健全な財政運営」

委員：意見なし

「5－3 財源の確保」

委員：債権未収金額に関する条例を作って、悪質な人についての情報はホームページに掲載するのはどうか。

収納対策課長：それは難しいので、管理条例によりある程度のルールを作って、長期にわたる債権は落としていくなどの対策を取りたい。

会長：目標値が実績値と変わらず上がっていない指標が見受けられる。検討を。

「5－4 計画管理」

委員：ハコモノ施設総量の削減について、大きな数字だが計画に入れて大丈夫か。

副市長：入れないといけない計画。